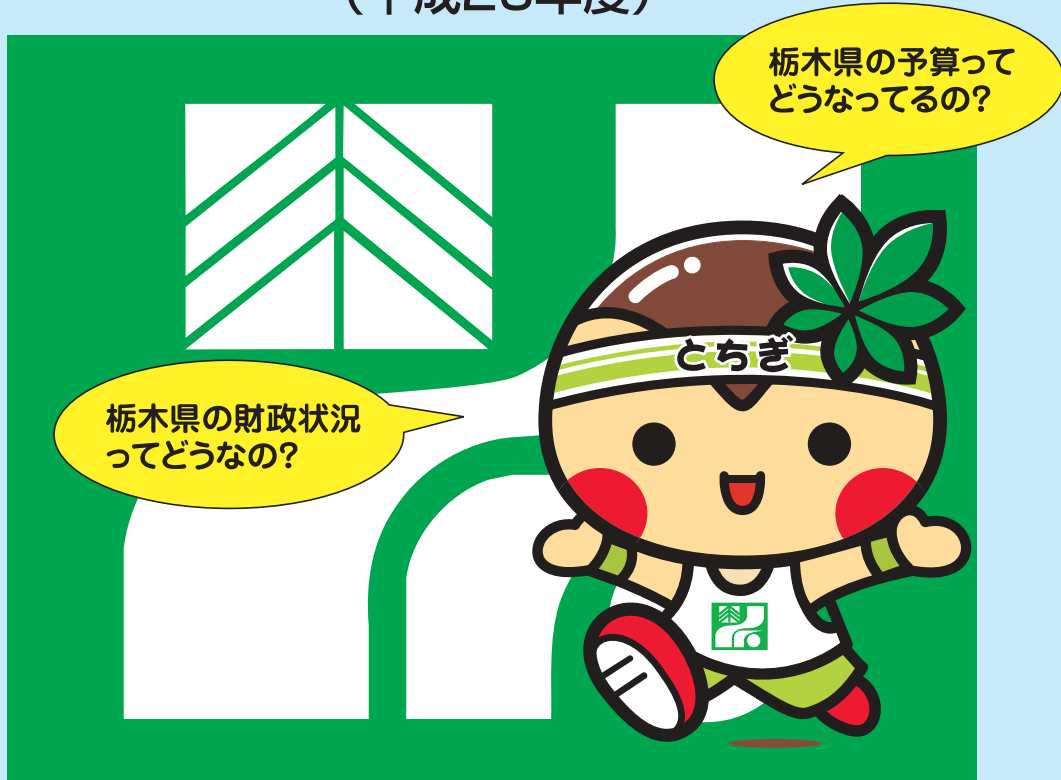


とちぎの財政

(平成26年度)



栃木県元気ニコニコ室長「とちまるくん」

復興から力強い成長へ “とちぎ力” 発信予算

I 平成26年度政策経営基本方針に基づく重点事項

復興から力強い成長に向けた取組

“とちぎ力” の発信

II 新とちぎ元気プランの着実な推進

政策の基本「人づくり」

暮らしを支える安心戦略

明日を拓く成長戦略

未来につなぐ環境戦略

とちぎづくり戦略の推進に向けて



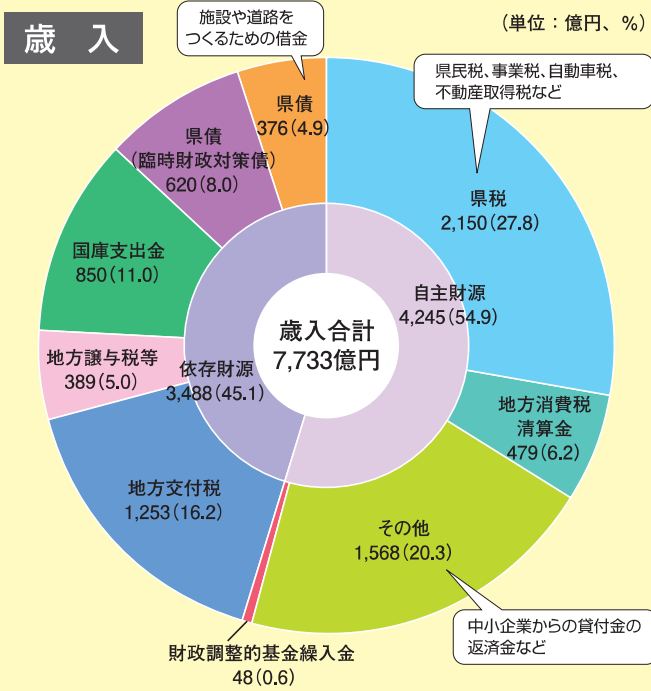
栃木県

Tochigi Prefecture

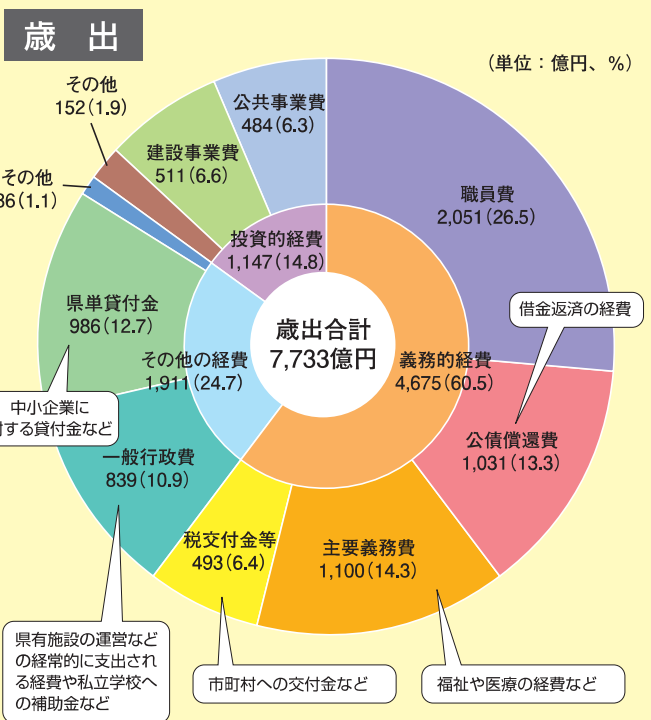
1 平成26年度当初予算の概要等

◎予算規模 7,732億9,000万円

- ・「財政健全化取組方針」の目標である「収支均衡予算」を編成
- ・「政策経営基本方針」の重点事項である「復興から力強い成長に向けた取組」と「“とちぎ力”の発信」の積極的な推進
- ・「新とちぎ元気プラン」に掲げたプロジェクトの着実な推進



- 歳入のうち、約28%が県税です。地方交付税、国庫支出金など国からくるものが約32%あります。
 - 全体の約13%を借金（県債）でまかなっているほか、足りない部分は貯金を取り崩しています。（財政調整的基金繰入金）
 - 借金（県債）については、国の地方財源不足対策による臨時財政対策債（臨財債）が約2/3を占めています。
- ※ 臨時財政対策債（臨財債）とは
臨時財政対策債は、国から地方公共団体に配分する地方交付税が足りないため、その不足する金額の一部を、いったん地方公共団体に借り入れをしてまかなう県債のことです。
なお、返済する際の財源は、全額、地方交付税で補てんすることとされています。



- 歳出のうち、約27%を職員費が占めています。このうち、公立小中高高等学校の先生や警察官の給与などが約84%を占めています。
- 職員費のほか、公債償還費や主要義務費など義務的経費が全体の約60%を占めています。



平成26年度予算の特徴

I 平成26年度政策経営基本方針に基づく重点事項

復興から力強い成長に向けた取組

- 大学コンソーシアムとちぎにおける「グローバル人材育成共通プログラム」の開講
- 「女性活躍推進会議」の開催 ○「とちぎ生涯現役シニア応援センター」の開設
- 女性・若者・シニア向け創業支援、起業家コンテストの開催
- ジェットロ貿易情報センターの県内誘致に向けた協議会の設置、国際見本市等への出展支援
- 海外観光プロモーションの実施（タイ、ベトナム、香港等） ○台湾における本県観光拠点機能の整備
- 県産農産物の輸出拡大に向けた取組（シンガポール、香港等）
- 県産農産物の安全性PRイベント開催、電車で吊り広告掲載 など

“とちぎ力”の発信

- 本県の発信力を高めるための統一的なコンセプトや効果的なプロモーションの検討
- 「(仮称)新とちぎ百選」の選定
- 県内4つのプロスポーツチームを活用した本県の元気・魅力の発信
- 県観光の新キャッチコピー「本物の出会い 栃木」のプロモーション映像の制作・放映
- スカイベリー、なすひかり、とちぎ和牛の本県リーディングブランドとしての育成 など

II 新とちぎ元気プランの着実な推進

政策の基本「人づくり」

- 県版学力調査の実施（小4・5、中2）、学力向上アドバイザーによる支援
- 小・中学生を対象とした「とちぎ子どもの未来創造大学」の開講 ○県内の一流芸術家による芸術体験講座の開催
- ひきこもり、ニート、不登校等の総合相談センターの設置 ○障害者スポーツ拠点施設の実施設計
- 総合スポーツゾーンにおける新スタジアム及び新武道館の基本・実施設計等
- 第27回全国健康福祉祭とちぎ大会（ねんりんピック栃木2014）の開催 など

重点戦略1：暮らしを支える安心戦略

- 児童養護施設退所予定児童等に対する就労支援
- 病院内保育及び病児・病後児保育施設の一体的整備の支援
- 「健康長寿とちぎづくり県民会議」の設立、ヘルシーグルメ推進店制度の創設
- 医師確保対策等を行う地域医療支援センターの設置
- とちぎメディカルセンター、新小山市民病院、上都賀総合病院の整備に対する助成
- 高齢者交通安全等アドバイザーの設置 など

重点戦略2：明日を拓く成長戦略

- 医工連携フォーラム、大手企業との技術交流会の開催 ○「設備投資促進融資」の創設（融資枠：20億円）
- 県内大型イベントに合わせた観光誘客キャンペーンの実施
- フードバレーとちぎ海外販路開拓部会の設置 ○畜産酪農研究センターの再編整備
- 農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化の推進 など

重点戦略3：未来につなぐ環境戦略





- 「とちぎエネルギー戦略」の普及啓発
- 「省エネ設備等導入資金」の創設（融資枠：1億円）
- 小水力発電導入促進のための河川流量データ等提供システムの開発
- 森林資源のフル活用に向けたモデル的な取組への支援
- 馬頭最終処分場の整備計画変更を踏まえた基本設計等の実施 など

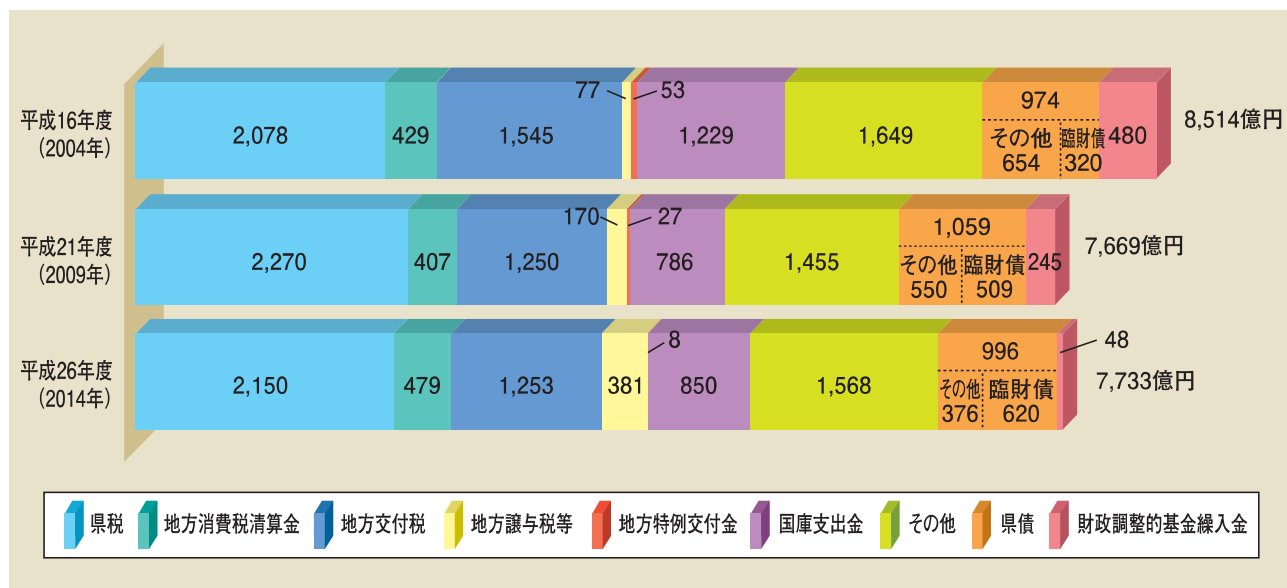
とちぎづくり戦略の推進に向けて

- 道路施設や河川・砂防施設の長寿命化修繕計画策定等
- 耐震診断が義務付けられた民間大規模建築物の耐震診断への助成
- 「地震減災行動計画（仮称）」の策定
- 災害時の被害を軽減させるための避難路や避難所周辺の道路・橋りょう等の整備
- 地域人材育成等の雇用対策の推進 など



2 平成26年度予算の内訳(過去の予算と比べてみると)

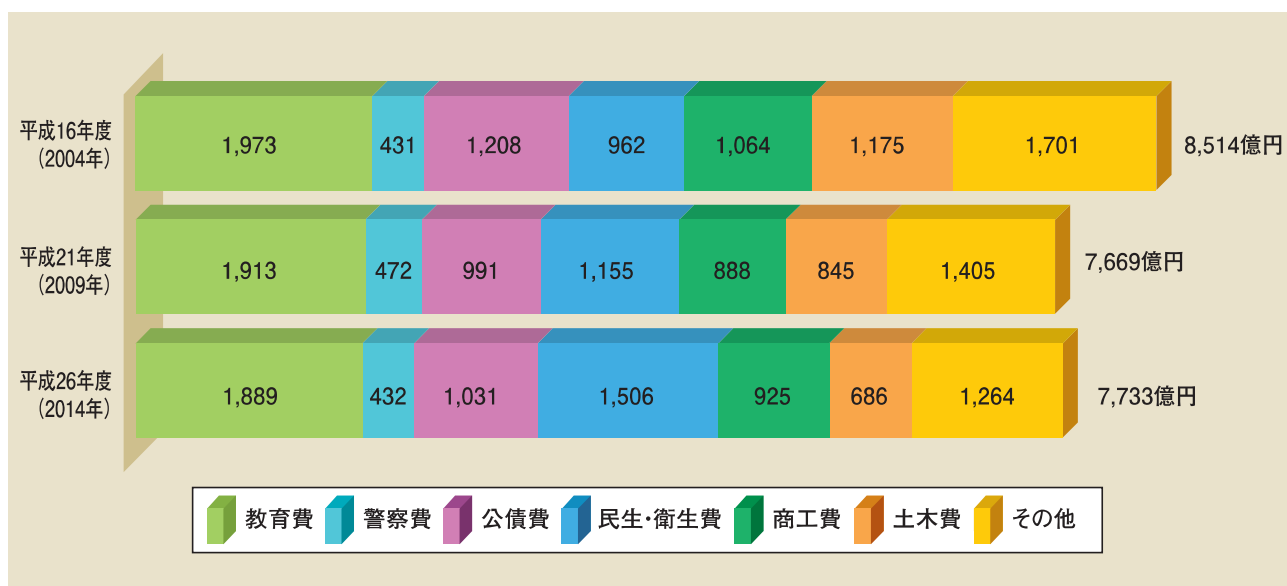
歳入

- 県税収入（）は、国からの税源移譲前の平成16年度に比べて増加していますが、リーマンショック直後の平成21年度と比べると減少しています。
- 地方交付税（）が減少する一方、臨時財政対策債（）は増加しています。
- 財政調整的基金繰入金（）は、「財政健全化取組方針」の取組により平成26年度は48億円まで減少しています。



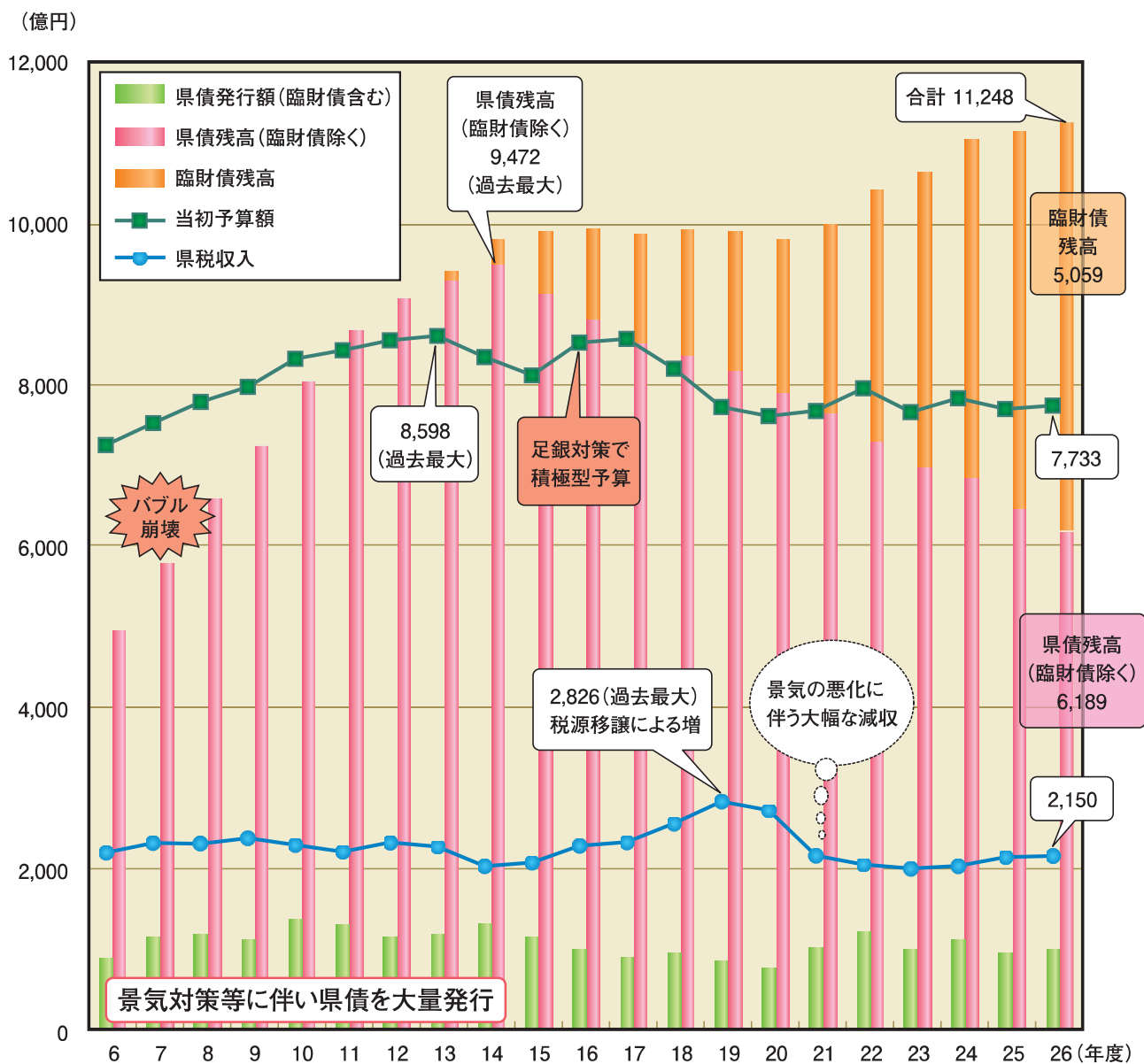
歳出

- 過去の借金に対する返済経費（ 公債費）が年間約1,000億円あり、大きな負担となっています。また、この返済経費は、今後も増加していくことが見込まれています。
- 高齢化に伴い、福祉・医療の経費（ 民生・衛生費）が年々増えており、今後もこの傾向が続くものと見込まれます。



3 栃木県財政の推移(過去20年間をしてみると)

- 予算規模(当初予算額 ■)は、平成13年度をピークに、近年は7,000億円台後半で推移しています。
- 県税収入(●)は、税源移譲により平成19年度に過去最大となり、以後は景気低迷により減少しています。平成26年度は2,150億円となることが見込まれています。
- バブル崩壊後、景気対策のために県債を大量に発行した結果、臨時財政対策債を除く県債残高は、平成14年度に9,472億円にまで達しましたが、近年は減少しています。
一方で、国の地方財源不足対策による臨時財政対策債の増加もあり、県債残高全体としては約1.1兆円となっています。



※県債残高、県債発行額及び県税収入については、24年度までは決算額、25年度は2月補正後、26年度は当初予算額です。

国等の動き

経済対策の実施(国・地方)

三位一体の改革
(H15~H18)

とちぎ未来開拓
プログラム
(H21~H24)

財政健全化
取組方針
(H25~H27)

4 「財政健全化取組方針」の概要(平成25年3月策定)

<基本的な考え方>

- 「とちぎ未来開拓プログラム」の集中改革期間における取組により、平成25年度当初予算では「**収支均衡予算を編成**」することができましたが、これを**平成26年度当初予算以降も継続**していく必要があります。
- しかし、中期財政収支見込みでは、プログラムの取組を継続する前提であっても、**公債費、医療福祉関係経費等の義務的経費の増加**、さらには**新たな行政需要への対応等**により、**引き続き毎年度80億円程度の財源不足**が見込まれています。
- 県政の持続的発展には、**強固な財政基盤が必要**であることから、**平成25年度以降においても、必要な見直しを行った上で、プログラムの考え方を継承し、財政健全化の取組を緩めることなく継続**していきます。

<目標>

- 毎年度の当初予算における財源不足額を概ね実質収支（繰越金）の範囲内に収め、**収支均衡予算を継続**します。
- 今後の財政状況の変化や県民利用施設の整備等に対応するため、**財政調整的基金の涵養**に努めます。

<取組期間>

平成25～27年度（3年間。とちぎ行革プランの終期に合わせる。）

○基本方針

- 要求基準の設定等による歳出の削減
 - ・予算編成に当たっての一般財源による要求基準の設定などによる歳出の削減
- 新規の大規模建設事業への対応
 - ・可能な限り一般財源を縮減、県有施設整備基金の涵養と活用
- 税外収入の確保
- 中期的視点に立った財政運営
 - ・当初予算編成に合わせ中期財政収支見込みの策定・公表
- 情勢変化への対応
 - ・国の経済対策への機動的な対応
 - ・財政見通しが大きく悪化した場合への適切な対応

○具体的な取組内容

(1)行政経費の削減

- 各部局の主体的判断による事務事業の見直しの推進
- 公共事業等の適切な実施
- 執行段階での節約
- 新たな大規模建築物の計画的整備

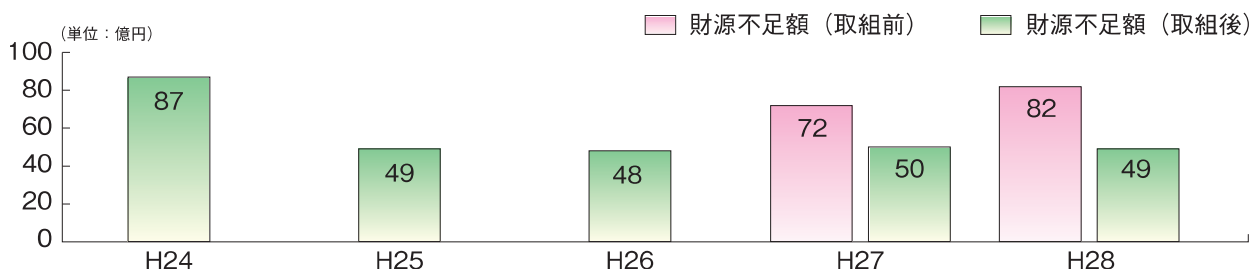
(2)内部努力の徹底

- 組織体制のスリム化
- 管理的経費の節約
- 適正な定員管理
- 公債費の縮減
- 給与制度の見直し

(3)歳入の確保

- 県税収入の確保
- 税外収入の確保
- 国への働きかけ

○財源不足額の推計（平成26年度当初予算後）



5 今後の財政収支見込み

- 「財政健全化取組方針」では、中期的視点に立った財政運営を行うこととしています。
- 取組方針策定から1年が経過し、現時点での中期財政収支見込みを作成しました。
- 今後も財源不足が見込まれていますが、取組方針に基づき、引き続き財政健全化に取り組みます。

栃木県の中期財政収支見込みについて

概要

- ・平成26年度当初予算や国の地方財政対策等を踏まえ、中期的な収支見込みを試算しました。
- ・平成26年度当初予算案をベースに、いくつかの前提条件を設定し機械的に試算したものです。
- ・従って、今後の経済情勢の変化や国の予算編成の動向等により、試算した数値は大きく変動します。

試算の考え方

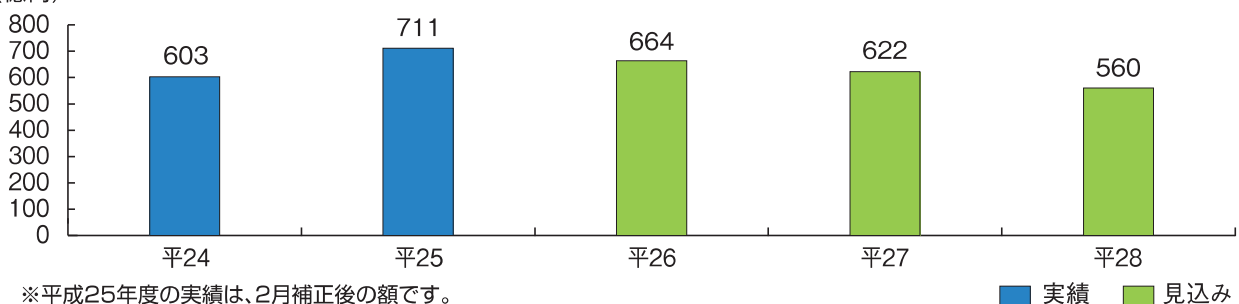
- ・職員費は、一般職員の減、教員の増減等を反映し、全体として減少を見込んでいます。
- ・公債費、主要義務費、税交付金等は増加を見込んでいます。
- ・県税、交付税等の一般財源総額は、平成26年度当初予算と実質的に同水準を見込んでいます。
- ・新たな行政需要等（※）として、総合スポーツゾーン整備、機動センター移転整備、地方合同庁舎整備等を見込んでいます。

(単位：億円)

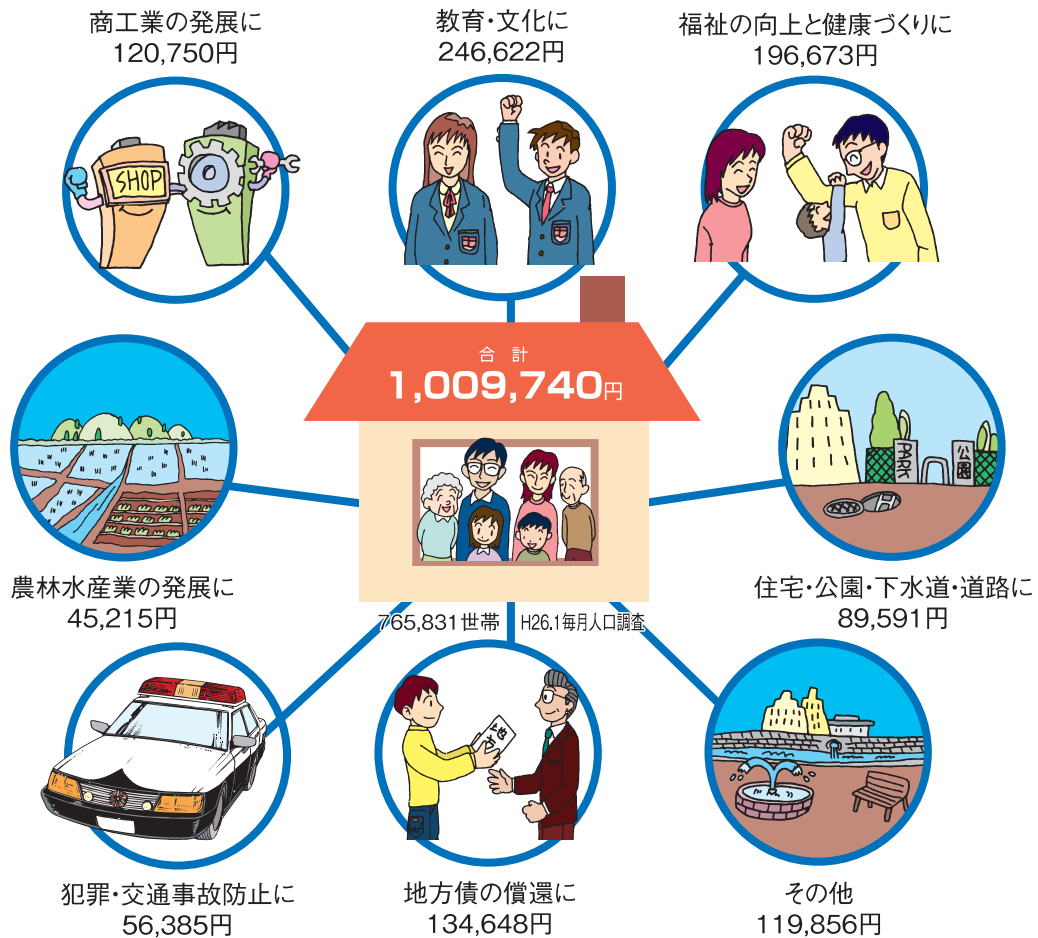
区分	H26	H27	H28	H29	H30
歳出合計（一般財源）A	5,378	5,717	5,912	6,185	6,296
新たな行政需要等分（※）	13	70	95	170	195
歳入合計（一般財源）B	5,330	5,645	5,830	6,101	6,204
新たな行政需要等分（※）	9	65	85	160	185
県債	9	45	55	100	130
県有施設整備基金		20	30	60	55
財源不足額（収支差）C = B - A	▲ 48	▲ 72	▲ 82	▲ 84	▲ 92
基金等充当額	48	72	82	84	92
年度末財政調整的基金残高見込み	664	622	560	466	369
年度末県債残高見込み	11,248	11,433	11,532	11,643	11,815
臨財債除き	6,189	5,988	5,759	5,618	5,534

(億円)

財政調整的基金残高の推移



一世帯あたりの支出内訳



第27回全国健康福祉祭とちぎ大会

ねんりんピック栃木 2014

咲かせよう! 長寿の花を 栃木路で

平成26年10月4日(土)~7日(火)



ふるさと“とちぎ”への応援(寄附)を募集しています!!

みなさまからお寄せいただいたご寄附は、文化の振興、福祉の向上、医療の充実、環境対策や日光杉並木街道保護など、ふるさと“とちぎ”づくりのために幅広く活用させていただきます。

◎お問い合わせ先
税務課 ☎028-623-2101

- クレジットカードでも寄附をすることができます。
- ふるさと納税として、所得税、個人住民税の控除の対象になります。

栃木県 宝くじ情報

みなさん宝くじは
栃木県内で
買ってね。



県内で発売された宝くじの収益金は、皆さんの身近な暮らしに役立っています。

◎お問い合わせ先
財政課 ☎028-623-2018

栃木県経営管理部財政課

〒320-8501 宇都宮市埜田1-1-20

電話 028-623-2018

FAX 028-623-2030

URL <http://www.pref.tochigi.lg.jp>

E-mail zaisei@pref.tochigi.lg.jp

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています